

第91号  
2018年1月

# 風

発行  
群馬県生協連女性協議会  
群馬県前橋市大手町3-19-3  
「風」はホームページでもご覧いただけます  
<http://gunma-ccu.jp/>  
Eメール: [post@gunma-ccu.jp](mailto:post@gunma-ccu.jp)

## 女性協組合員学習交流会を開催しました 11月14日(火) 失明のハンディを乗り越え輝く澤田馨さんのお話に感動

11月14日(火) 組合員学習交流会の講演「夢追いかけて」を群馬県生涯学習センターで開催し、生協の役職員など54名が参加しました。学習交流会はこれまでも開催してきましたが、今回は県内の活躍する女性を講師に迎えて女性の社会進出と男女共同参画を考える場として企画したもので、第1回目として前橋市にお住まいの澤田馨さんをお招きしました。

澤田さんは小学校3年のときベーチェット氏病に罹り、中学2年で視力を失ってしまいましたが、鍼灸・マッサージ師のかたわら音楽活動を行い、歌手としてCDもリリース、社交ダンスにも活躍の幅を広げています。

お話しでは、痛みと失明の恐怖、家族や周りの支え、点字や化粧の習得、情



澤田馨さんの講演のようす



講師 澤田馨さん

熱的な結婚生活や、とまどいながらも奮闘した子育て、社交ダンスでアマチュア最高峰に上り詰めた厳しいレッスンの日々、夫とは尽くし過ぎたゆえの離婚であると言いつつも今でも良き相談相手であることを、笑顔と涙で語っていただきました。

ハンディを乗り越え夢に向かって次々とチャレンジする澤田さんの語りと歌声に、会場は涙と感動に包まれました。

女性協副会長 藤原京子

### 「夢追いかけて」の講演を聞いて

澤田馨さんは小学校三年生の時、ベーチェット氏病という難病にかかりました。過酷な闘病生活の話は胸が苦しくなりました。中二で視力を失いますが、消極的になることなく、自分の夢へ向かって努力し、一つ一つ実現されていきました。澤田さんの話の中で印象に残った言葉があります。

「私は紹介される時はいつも「盲目的」という枕詞を付けられ、そのことが嫌でした。でも社交ダンスの資格試験の時、一緒に受験した人から「目の見えない澤田さんが頑張っているから私も頑張る」と言われ、「盲目的」と言われることが誰かに勇気を与えるのなら、いいじゃないか、と思うようになりました。」

今、若い人の自殺がとても多く、心が痛みます。澤田さんには是非、中学生や高校生に話をしてもらいたいです。きっと生きる勇気を与える事ができる方だと思います。

利根保健生協 杉山久美子さん

## 2017年中央地連「男女共同参画学習会」 に運営委員3名が参加しました

8月31日(木)

8月31日(木) 渋谷コーププラザにおいて、日本生協連中央地連主催の男女共同参画学習会「男女共同参画の基本について学ぼう～自分で生協で何ができるか見えてくる!?～」として第1部学習講演、第2部グループ交流が行われました。県連女性協から甫仮委員、柳井の2名、コープぐんまから女屋委員が参加しました。

独立行政法人国立女性教育会館(NWECヌエック)の引間紀江さんの「男女共同参画の基本を学ぼう」の学習講演では、NWECの紹介や男女共同参画の歴史や視点、ワークライフバランス、SDGs(持続可能な開発目標)の中でも、ジェンダー平等の実現が掲げられている事などを解説していただきました。中でも気になるキーワードとしてアンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)がありました。「女性には大変だから」など、良かれと思って無意識にしてしまう「思いやり」「配慮」が挑戦や可能性をつぶしてしまうかもしれないというお話でした。

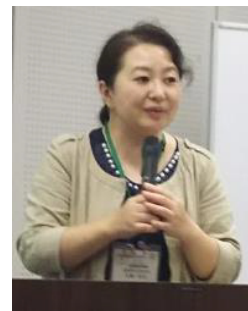
グループ交流では(ワーク1)自己紹介を兼ね、学習講演の感想について交流しました。(ワーク2)男女共同参画の目線で思い描いていた理想の人生と現状や、これからどうするか描く理想の人生



グループ発表のようす

を付箋に書き出しテーブルごとに発表いたしました。ワーク終了後「一人一人の意見を出してもらい、違う意見を出してもらいのが共同参画の第一歩。誰がいつまでにやりますか。そこに自身が関わることは何でしょう。」という言葉に、自分や自分の生協で出来ることは何だろうと深く考えるきっかけになる学習会になりました。

運営委員 柳井由香里(パルシステム群馬)



講師 引間紀江さん

## 9月3日(日) ぐんま男女共同参画センター 登録団体交流会に参加しました



ぐんま男女共同参画センター

9月3日(日) ぐんま男女共同参画センターにおいて、同センター登録団体交流会が開かれ、22団体33名が出席し交流を行いました。県連女性協議会から、藤原副会長と松本の2名が参加しました。

出席団体が5グループに分かれ、活動交流を通じて団体の相互理解を深めることや団体同志の連携について意見交換をし、福祉・子育て・環境・食・男女共同参画等、様々な分野で活動されている団体の活動を知る事ができとても参考になりました。また「男女の性別や年齢にかかわらず、共に暮らしやすい社会」を実現する為、積極的に活動されていると感じました。

女性協議会でも、男女共同参画についてさらに理解を深め、会員生協や他団体と連携し広げていきたいと思いました。

女性協会長 松本勉枝

## 会員生協との懇談会第3回目を開催 11月21日(火)

パルシステム群馬渋川センターを訪問し、施設見学と懇談会を行いました

11月21日(火)午後、パルシステム群馬渋川センターを訪問し、交流しました。パルシステムから反町幸代理事長はじめ8名、女性協から運営委員・事務局7名が参加しました。

林常任理事の案内で、渋川センターに併設されている「みんなの居場所『縁が輪』」を見学。渋川センターの敷地内で魚屋さんがあった場所を、まちの縁側プロジェクトメンバーでリフォームし組合員や地域の方々が活動や交流の場所として利用できる居場所として、2013年4月にオープンさせました。この間、お父さん・お母さんと子どもたちも参加し、「流しそーめん



懇談会のようす



『縁が輪』施設見学のようす

とかき氷」「心書教室」「体操教室」など様々なイベントを開催してきました。見学当日の午前中も、クリスマスリース作りが行なわれていたそうです。役員と一組の親子が残っておりました。壁の塗り替えもみんなで行い、家具などの備品は組合員さんからの寄付、調理場は魚屋さんの使っていた流しや調理台をそのまま活用しています。

手作り感いっぱいのおかみのある施設でした。仕

事の帰りに魚屋さんで買い物した事の在る私も、居場所『縁が輪』は初めてでした。みなさんも一度出かけてみてください。

渋川センターは、小林センター長の案内で、冷凍冷蔵庫の施設、プラットホームでの配達品の積み込みの様子など説明を受けた後、2階会議室で、懇談と交流を行いました。



渋川センター施設見学のようす

パルシステムは、10生協中9生協が女性理事長、1生協が女性副理事長だそうです。女性の活躍しやすい職場での働き方、今後の課題などお聞きし、大変参考になりました。

運営委員 猪俣友子（北毛保健生協）

このたび会員生協訪問ということで女性協議会の皆様にお越しいただき、施設の見学や報告、意見交換をさせていただきました。

パルシステム群馬ではここ数年、労働環境改善や時間外労働の削減などに取り組んでおりますが、今回あらためて男女共同参画の視点で自組織の報告を聞いたことで、まだまだ見えていなかった課題が多くあることを感じました。

特に女性と男性の職員数や職位の違い、女性が職員や監督職になって感じる働きづらさなどは早めの改善が必要に感じます。また、男性の育児休暇取得も実績がなく、男女問わずワークバランスを考えた労働環境づくりが必要だと感じました。

今回、女性協議会の皆様にごこのような機会をいただいたことは、パルシステム群馬にとってとてもよい機会となりました。ありがとうございました。

パルシステム群馬 林 百恵(常任理事)さん

# 女性協から群馬県への要望事項に回答がありました

## 県消費者大会実行委員会各団体と連携 10月18日(水)

10月末に開催された群馬県消費者大会に先立ち、大会実行委員会（委員長：八田直樹県連会長）が提出した群馬県への要請事項の説明会が、10月18日（水）群馬県庁内の会議室で開催されました。

群馬県生協連女性協議会も消費者大会実行委員参加団体と連携し、事前に3項目の要望事項を提出していました。

回答の当日は、実行委員会から7団体8名が参加し、女性協からは松本会長と藤原副会長が参加しました。

女性協からの要望事項については、労働政策課 女性・



回答説明会のようす（八田実行委員長あいさつ）

若者就職支援室、人権男女・多文化共生課、教育委員会事務局 義務教育課の各担当職員から回答説明がありました。

### 女性協から県への要望事項

（要旨）

- 1 民間を含めた群馬県での男性の育児休業取得で平成25年アンケート結果では3.8%とのことでしたが、その後の施策と取得率の変動状況について、教えてください。
- 2 県内市町村の男女共同参画基本計画の策定状況について、教えてください。また、基本計画策定推進のため、県から市町村への働きかけを強めていただくことを要望します。
- 3 小中学校における県内の男女共同参画教育・学習推進の状況や教職員への研修の実施状況について教えてください。

## 共同参画の取組み紹介

各生協から寄せていただいた原稿をそのまま掲載しています。

地域のつながりも男女共同参画の視点で！

### 群馬中央医療生協



親子でおもちゃづくり

群馬中央医療生協中毛地区で2017年10月22日に開催された「第26回健康まつり」は「つながる・ひろがる・まちづくり」をテーマに地域の様々な団体と協同した企画で地域住民交流の場となりました。

子どもコーナーでは前橋市天川地区地域づくり協議会の子育て支援に取り組んでいらっしゃる方の指導で手作りおもちゃを親子で作りました。ペットボトルやラップの芯な

どを使ったおもちゃづくりにお父さんも大活躍でした。

NPO法人「ながいきコンシェルジュ」の方を講師に行った「回想法学習会」では昔懐かしい生活用品や映画などを見ながら和気藹々と世代を超えて交流しあいました。これからも多世代交流で住民同士がつながりあえる場として様々な団体との協同で「健康まつり」を開催していきます。



回想法学習法での交流